



【は】 っけん・気付く

久遠

【ル】 ートを考えつながる

【え】 がおを創り出す



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

「なりたい自分」につながる

校長 横枕 耕史

私事ですが4月の誕生日で還暦となり、人生60年も生きてきたのかと感慨にひたっています。春江中学校は京葉道路の整備とともに宅地化が進み人口が増えたことで瑞江第二中学校から分離して開校した昭和52年、私は中学1年生でした。その当時の学校には産業界から「規律を守り勤勉に従順に努力する人物像」が求められていたこともあり、当時の学校は現在とは異なり厳格な校則やルールで「型」にはめるような管理教育でした。校則で決められた坊主頭だった当時の私は、抑圧され制限された空気感の中で「自由」を探し求め、好きなことや興味のあることに積極的に取り組んでいました。気心の合う仲間と勉強や運動で競い合い切磋琢磨したり、夢を語りあったり、たわいもない話で盛り上がったりと、楽しく過ごす工夫をしていた記憶があります。特に美術の授業では自由な発想で制作することができるので個性を発揮して楽しく制作していました。それがその後の私の進路「なりたい自分」（美術教師）へとつながっていきました。思春期の時期に失敗や成功を重ねながら、夢を追い求め、思い悩みながら行動したことが、自分の基盤である「自分軸」になったといえます。

さて、本校では「未来を主体的に生き抜く力」を育む教育を推進しています。生徒が未来をデザインし「なりたい自分」につながるためには、自分の基盤である「自分軸」を作る必要があります。

生徒にとって学校という場所は、同年齢の集団の中で周囲の他者と良好な関係を築き、維持しながら学習活動や様々な経験する社会になり、どうしても他者と良好な人間関係を構築する場になります。そこでは集団生活を送る上で、他人の言葉や評価を気にする人は少なくありません。他者からのフィードバックは、自分を知るための貴重な手がかりといえ、自分の強みや成長すべき点を客観的に理解することができる反面、それを気にし過ぎると、行動にブレーキがかかり、自分らしさを見失いストレスを抱えてしまうこともあり

ます。他者からの評価を大切にしながらも、それに振り回されないように注意するためにも「自分軸」が大切です。「自分軸」を持つには、自分はどうか、どうありたいか、自分の中にある価値観や基準を持つ、自己理解を深め、自分が好きなこと、得意なこと、興味を持っていることを整理し、過去を振り返り、自分が最も輝き充実感を得られた経験を思い出し、自分を知ることが自分軸を築くことにつながります。その際に誰かと自分を比べると自分が足りなかったと感じる部分ばかりに目が向いてしまい、自己肯定感が下がってしまうので、他者と自分を比較せず自分で自分をポジティブに捉え、肯定することが重要です。

【「なりたい自分」につながるステップ】

1 自分を知る（内面の理解）

- ① 自己理解（自分の得意・不得意、興味や価値観）
- ② 自分の選択や行動の基準となる「自分軸」の形成

2 考える力を育てる（思考のスキル）

- ① 情報や意見をうのみにせず、自分で考えるクリティカル・シンキングの力を育てる。
- ② 「なりたい自分」になるために必要な力やスキルを整理し、課題設定をする。
- ③ その課題をどうすれば解決できるか、現実的な問題解決策を考える。

3 行動を計画し実行する（自己マネジメント）

- ① 計画を立て時間や行動をコントロールする自己管理を意識する。
- ② 状況に応じて自分の行動を見直し修正する自己調整を大切にする。
- ③ 学校の勉強だけでなく自分で学び続ける自学自習の習慣をつける。

4 実践を通して成長する（行動と気持ち）

- ① うまくいかなくてもあきらめず、トライ&エラーを繰り返して学びに変える。
- ② どんなときも前向きな気持ちを忘れずにポジティブ・シンキングで進んでいく。